

A-20 日常摂取食餌中の亜鉛含有量と亜鉛添加食餌給与によるラットの発育栄養  
状態

宮城学院女大 ○後藤Eへ 伊藤静子 千賀満知子

目的 亜鉛(Zn)は人体内でその触媒的作用。または栄養状態との関連が報じられているが、近年人体の発育、特に春機発育期における成長促進、特に男性に対して青年期の身長  
の伸び、骨格、筋肉、生殖器官の発育に欠くことが出来ないといわれる一方、老人の動脈硬  
化防止、あるいはZn欠による脳発育の遅れも指摘されている。表題の研究により、Znと  
健康の関係を検討した。

方法 著者の一人後藤が23年前に日常摂取食餌(一週間分の献立食餌の分析による)中のZn  
含有量をしらべたので、現時のそれと比較し、同時にその現時のZn含有量の10倍内外のZn  
を硫酸亜鉛の形で雄ラット食餌に添加給与して、その発育、その他を比較した。23年前の  
食餌中Znの分析法はジチゾン試薬による比色法によったが、現時のそれは原子吸光法によ  
った。

結果 現時の日常摂取食餌中のZn含有量は、一人一日平均5.1/5mgで23年前のそれと比  
べると、分析法の違いもあると思われるが、約2分の1以下に減少している。(水道水の浄  
水装置の向上、調理器具の改良なども考えられる)また、発育期(初体重約100gから300g迄  
くまで43日間飼育)ラットの発育は、日常食Zn含量の約10倍添加給与群が、Zn無添加群より  
発育、栄養状態が良好の傾向を示した。